



労働市場のトレンド
未来予測の羅針盤！

連載
第129回

高市トレード

武藤泰明の 経営者目線で読む 景気動向



むとう やすあき
武藤 泰明

1955年生まれ。1980年、東京大学大学院修士課程修了。株式会社三菱総合研究所の主席研究員を経て、2006年から早稲田大学スポーツ科学学術院教授。専門はマネジメント。『スポーツファイナンス』（大修館書店）、『人手不足時代の人事戦略』（日本能率協会マネジメントセンター）など著書多数。

10月27日に日経平均が5万円を超えた。高市首相が誕生したのが21日なので7日目。21日の高値は4万9945円だったので、あっさり超えるかと思ったら意外に時間がかかった。これだけ上げると、いわゆる「利益確定売り」が増えるかららしい。ともあれ、この人は実業界から支持されている。

国民からの支持という点では、鳩山（由紀夫）さんや菅（かん）さんのほうが就任時の支持率が高いようだが、この2人は経済・産業政策で支持されていたわけではない。総理大臣が代わって経済が動き始めるかもしれないと国民が考えるのは久しぶりで、2012年の第二次安倍内閣以来ではないか。その安倍さんも、三本の矢、つまり大胆な金融政策、機動的財政、成長戦略、いわゆるアベノミクスを唱えたのは2013年6月なので、経済政策を担いで首相になったのではない。高市さんは総裁選二度目ということもあって準備

ができていた。もちろん、二度目ならだれでも準備ができるわけではないが。高市総理誕生に伴う株式市場の動きに、高市トレードという名前がついた。その中身を少し確認しておきたい。意外な、そして重要な事実を見つけることができる。

○外国人投資家は「動き出し」が早かった

第一に、海外資金が日本株買いを進めたという報道について。表は東証プライム銘柄について、誰がどれだけ買い越したか、あるいは売り越したのかを週単位でみたものである。一見して明らかなどおり、外国人買いが桁違いに多い。つまり報道は的確なのだが、気をつけておきたいのは「時間軸」である。

高市さんが自民党総裁になったのは10月4日である。本命は小泉進次郎さんだとメディアは言っていた。小泉さんの出馬会見は9月

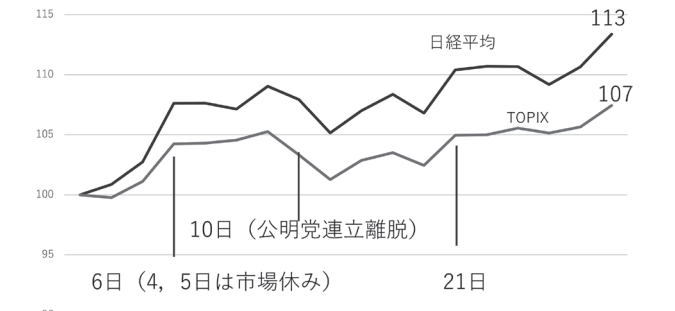
から。これについてその大臣は、麻生さんには昔のような影響力はないとメディアにコメントしたのである。10月3日であった。そして翌4日に日本のメディアの予想に反し、高市総裁が誕生する。

さて、これを頭に入れたうえで表を見ると、外国人が1兆円以上の買い越しになっているのは、9月29日から10月3日の週、つまり高市総裁以前なのである。この理由として一応考えられるのは、自民党の新総裁が小泉さんでも高市さんでも、どちらの場合も景気浮揚策が推し進められると投資家が考えたというものである。しかしそれなら外国人に限らず、

日本の投資家も買いに行つてよいはずだ。でも、外国人投資家は明らかに「動き出し」が早い。

この理由は、海外メディアはかなり早いタイミングで、高市新総裁を予想するところが多かった

図 日経平均とTOPIXの推移（10月1日～27日、1日終値＝100）



○日経平均とTOPIXからわかること

第2に、どんな銘柄が買われたのか。図は、日経平均とTOPIXについて、10月1日の終値をそれぞれ100として、その後の毎日の推移をみたものである。4日土曜日の高市総裁誕生で明け6日の株価は急騰し、公明党の連立離脱で下げ、自維連立で復調し、トランプさん来日で日経平均が5万円を超える。後講釈ながら、分かりやすい展開であったと思う。

気をつけておかねばならないのは、TOPIXより日経平均が上がっているところである。日経平均は10月に入って13%上昇し

表 投資家の売買差額

期間	(百万円)			
	9.29-10.03	10.06-10	10.14-17	10.20-10.24
海外投資家	1,278,636	1,071,607	183,252	650,182
投資信託	62,124	-42,182	-148,168	-113,614
事業法人	122,755	152,812	127,070	65,493
金融機関	-276,238	-644,932	-125,127	-138,116

資料：東証

注：プライム市場銘柄の売買である